

この度は、特別賞という望外の吉報に接し、欣喜雀躍の思いでございます。

私の作品を選んでいただいた諸先生方には、何とお礼を申し上げればよいのか、感謝の言葉もございません。

また、私が受賞できたのは、ひとえに帝京大学の石川ひろの先生の、懇切丁寧なご指導の賜物でございます。

石川先生には、この場をお借りして、心からの尊敬と深い感謝を申し上げます。

今回、シナリオを作成して感じたのは、平易な文法や誤解のない単語を駆使して、

「易しい」言葉を紡ぐことも大切なのですが、それ以上に、相手が何に対して困っているのかを把握し、その方の言葉のレベルや、病気の理解度や、置かれている社会的な状況などに併せて、一人一人に寄り添った「優しい」対応を心がける思いやりこそ、「やさしい日本語」の本質なのではないかという事です。

今回の受賞をきっかけとして、立場の弱い方の力になりたいという、私が医者を目指した初心に戻り、言葉の問題で苦勞をされている多くの方たちの一助になれるよう、今後も切磋琢磨してゆこうと、気持ちを新たにしました次第でございます。

さて、ここまで申し上げた内容を、やさしい日本語で言いなおしますと、

「賞がもらえて、とてもうれしいです」

「私の作品を選んでくれた先生がた、どうもありがとうございました」

「賞がもらえたのは、石川先生のおかげです、ありがとうございます」

「やさしい日本語は、易しいだけでなく、優しいことも大切だと思います」

「これからも、困っている人たちのために、頑張ります」

となります。とても分かりやすく、やさしいですね。

最後までお目通しいただき、厚く御礼申し上げます。

(終わりまで読んでくれて、ありがとうございました)

皆様方の、益々のご健勝とご多幸を、祈念しております。

(みなさんが、これからも元気で幸せでありますように)